コラム 4-3　ハトにも迷信がある

　迷信とは「道理に合わない言い伝えなどを信じること」とされています。「四つ葉のクローバーを見つけると幸運が舞い込む」「黒猫が前を横切ると悪いことが起こる」「夜にツメを切ってはいけない」といった例にみられるように，多くの場合は，迷信は「○○があると良いことが起こる」「××すると悪いことが起こる」というように，人間の行動や何かの現象が起こることと，それによって生じる結果，つまりある種の因果関係を表しています。これらのうち，客観的にみてその関係の根拠が希薄か，根拠がない場合に，迷信と呼ばれることになります。

　空腹のハトを実験箱に入れて，その行動にかかわりなく，一定時間ごとにエサを出すようにすると，エサが出る直前に頭を上げ下げしたり，実験箱の中をひと回りするといった特異な行動があらわれることがあります。1948 年にこの現象を観察したスキナーは，ハトが，あたかも「その行動をすることがエサが出現する原因である」かのように行動したとして，これは人間の迷信と同じメカニズムで形成されたものだと考えました。実際には，ハトがエサが出てきた直前にしていた行動とエサが出てくることにある種の因果関係があると学習したと考えられます。つまり，迷信的な行動は，偶然に生じたオペラント条件づけによって形成されることもあるということです。皆さんがもっているある種の迷信やジンクスにも，そのようにしてできたものがあるのではないでしょうか。